あさひの日だまり

令和６年　１０月　７日（月）

NO.２１

辰野町立辰野東小学校　文責　片桐

～児童会の総会が行われました～

後期児童会が始まります

１０月４日に児童会総会が行われました。前期の児童会を振り返り、後期の児童会へ向けて活動方針が確認されました。後期の児童会のスローガンは「みんなで造ろう東小！」です。議案書を見ていくと代表委員会の目標は「挨拶を通して、声を出せる学校！」と書かれていました。みんなで挨拶をし合うことで、互いに声をかけあうことのできる東小学校を、自分たちで造っていこうという意思が感じられます。期待は膨らみます。

しかしながらその一方でこのテーマを実現することの難しさも感じます。私はかねがね子どもたちに「自分で考え行動することの良さ」について話をしてきました。誰かの指示を受けて従うのではなく自分で行動を起こすことで自分の可能性を実感して欲しいと願っているのです。そのもっとも身近なことで最も日常的に触れることのできることが挨拶です。では「あっ　あそこに近所のお母さんが立ってる。挨拶していこう」と考え、自分からあいさつをできる子がどのくらいいるでしょうか。これは子どもたちだけの課題ではなく私たち大人の課題でもあります。

週末用事があって出かけたときのことです。道端にベンチがありました。初老の女性が座っています。あたりは多くの人出で互いにあいさつを交わす余裕もありません。ふと周囲に人の気配がなくなった時私はちょうどそのベンチの前を通りかかりました。そこに腰かけている方と目が合いました。にっこりと微笑みながらその方は「こんにちは」と挨拶をして下さいました。私はとても嬉しくなりました。というのは、私は道路ですれ違う方には挨拶をするように心がけています。挨拶を返していただくことはなかなか難しいです。びっくりした顔をして通り過ぎる方もいます。小さな声で何か声を返して下さる方もいます。そういう時は何だか気持ちが少し落ち込みます。私がやっていることが間違っているのかな～と思うときもあります。そういう中でこのときのように先にあいさつをしていただくとなんだかとても嬉しくなって思わず大きな声で「こんにちは」と挨拶を返します。その一瞬ただただ嬉しい気持ちが湧きあがってくるのです。そのことにどんな意味があるのかと問われてもすぐにはよい答えは思いつきませんが、心地よい思いになることは事実です。

さて後期児童会の挑戦が始まります。もし、「自分からあいさつできる私」になれたならこんなに素晴らしいことはありません。どこかの誰かをすがすがしい気持ちにできるそんな力を身につけられたらこんな素晴らしいことはありません。

～あさひ美術館で学習をしました～

例年３年生と６年生が行います

本校は学校全体が「あさひ美術館」と呼ばれています。私がこのことを知ったのはつい最近です。北校舎にあるあの一室が「あさひ美術館」だと思っていました。そうではないことを辰野在住の方に教えていただき驚きました。校外には彫刻がいくつも置かれています。校内には多くの絵画がいたるところにかけられています。それもすべて美術館の所蔵品ということになります。遠くからの問い合わせがあって来往される方も結構います。専門家の方もおられますし一般の方もおられます。どうぞ地域の皆様、お時間のある時にご来校ください。ご案内します。

そして、現在子どもたちの教室の前には絵画が展示されています。９月を図工月間とし絵画に取り組みました。図

工が好きな子どもがクラスに何人かいます。その子たちにとって楽しい時間を過ごせるように願いました。苦手な子にはちょっと可哀そうですが、その子はまたほかの内容で他の時間に活躍できるように考えています。

例年本校では９～１０月に３年生と６年生があさひ美術館の学習をします。講師はあさひ美術館の理事長さんにお願いしています。昨年度から理事長さんが小松様から村上忠志様に代わられ、講師も初めて村上様にお願いしました。

村上様のお話は大きく分けて２つでした。一つは絵をかく時の心構えでした。「目で見ただけではなく、心に浮かんだ風景を描いていいんだよ」というお話しでした。もう一つは北校舎に所蔵されている作品についての解説でした。３年生の子どもたちは初めて目にする作品です。村上様に作品の背景や意味を説明していただきながらの鑑賞でした。私自身それを知らずに鑑賞するのとではずいぶん絵の見え方が変わることを実感しましたので、子どもたちにとっても私にとってもとても貴重な時間でした。次回は６年生の鑑賞となります。村上様にはまたお世話になります。

～音楽会が近づいてきました～

ステージ練習に取り組んでいます

今月の２２日は音楽会です。現在子どもたちはステージ練習に取り組んでいます。ステージ練習は担任の先生が中心になって指導をして、音楽の荒井先生がまだマスターできていない部分を個別に指導して下さっています。鍵盤ハーモニカの指の動きを一緒にやっていただいたり、太鼓のタイミングを後ろから声がけしていただいたりしながらの指導です。個別指導を受けている児童はまだ自信のないところが残っているので眼差しは本当に真剣そのものです。

先生の真剣さと子どもたちの真剣さが１つになって、いつもでは叶えられないような難しい演奏が可能になっていくように感じます。当日ステージに立った全員の子どもたちが「大丈夫最後まで演奏できる」という自信をもってくれたら嬉しいです。失敗は気にする必要はありません。でも、「できないところがあるんだよな」という不安の気持ちでステージに立つことはつらいことです。担任の先生、音楽の先生、そして子どもたちの頑張りに声援を送りたいです。

保護者の皆様子どもたちは本当によく頑張っています。どうぞ当日はご来校いただき子どもたちの頑張りに声援を送っていただきたいと思います。

～５年生が脱穀の学習に取り組みました～

５年生はお借りしている学校田で今年はもち米とうるち米の両方を作ってきました。先日稲刈りをしてはぜかけされていたお稲を３０日に脱穀しました。田んぼへ行ってみたらびっくりしました。昔の脱穀機で脱穀しているのです。一つは千歯扱き（せんばこき）でもう一つが足踏み脱穀機でした。当然現在はどちらも農家では利用されてはいません。利用したようですので子どもたちは文明の利器の便利さを実感したことと思います。それにしても、お米が高騰している現在、はぜかけ米を食べられるのはとても贅沢です。こんな素晴らしい機会を５月から準備して下さった地域の方に心から感謝です。